

# 平成25年度実施事業

## 協働事業報告会

◆開催日 平成26年5月10日（土）

◆会場 ひらつか市民活動センター

### 目次

●スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1

●協働事業報告書

①応急手当の普及・啓発事業・・・・・・・・・・・・・・・・P 2

②外国籍市民支援放送事業・・・・・・・・・・・・・・・・P 14

③食品の放射性物質簡易検査・・・・・・・・・・・・P 22

④協働による地域づくり事業～地域の課題解決に向けた市民活動  
団体との連携（ひらつか地域づくり市民大学）・・・・P 30

⑤「地域猫」への取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・P 39

⑥一般家庭での生ごみ自家処理推進事業・・・・・・・・P 58

⑦里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立  
（ランドワークの推進）・・・・・・・・・・・・P 66

※里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立は  
実施団体の土屋里地里山再生グループから事業報告、評価の  
提出がありませんでした。

平成25年度実施協働事業 報告会

●開催日：平成26年5月10日（土）

●会場：ひらつか市民活動センター

時 間	内 容
14:00	<p><b>協働事業報告会開会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協働事業審査会委員長あいさつ</li> <li>・協働事業審査会委員紹介</li> <li>・事務局説明（スケジュールと発表の方法など）</li> </ul>
14:10	<p><b>平成24年度実施事業の報告（プレゼンテーション）</b></p> <p>※各事業ごとに報告発表（5分）、審査員からの助言等（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆行政提案型協働事業           <ol style="list-style-type: none"> <li>①応急手当の普及・啓発事業</li> <li>②外国籍市民支援放送事業</li> <li>③食品の放射性物質簡易検査</li> <li>④協働による地域づくり事業～地域の課題解決に向けた市民活動団体との連携（ひらつか地域づくり市民大学）</li> </ol> </li> <li>◆市民提案型協働事業           <ol style="list-style-type: none"> <li>①「地域猫」への取り組み</li> <li>②一般家庭での生ごみ自家処理推進事業</li> <li>③里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立（グラウンドワークの推進）</li> </ol> </li> </ul>
16:00	<p><b>閉会予定</b></p>

## 平成25年度実施 協働事業報告書

(宛先)  
平塚市長

団体名	ひらつか応急手当協力会	
団体代表者	小川 弘子	印
事業担当課名	消防救急課	
事業担当課長	柳川 慎治	印

平成25年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	応急手当の普及・啓発事業		
事業開始年度	平成25年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	315,979 円	内訳	市の支出 248,629 円 ----- 団体の支出等 67,350 円
事業の概要	<p>毎月9日に開催する一般市民対象の普通救命講習会や平塚市が開催する普通救命講習会等に応急手当普及員として参加し、市民に対し応急手当の普及・啓発を図り、平塚市における救命率を向上させることにより、平塚市民が安全に暮らせる安心な町づくりを目指しています。</p>		
具体的な実施内容	<p>応急手当普及員の資格を有する会員が、普通救命講習会及び応急手当講習会に講師として参加しています。受講者に対し心肺蘇生法やAEDの取り扱いの実技等を指導することにより、正しい救命処置が実施でき、人命を救うことのできる市民を増やしています。</p> <p>実施内容は別紙「25年度ひらつか応急手当協力会活動記録」のとおり。</p>		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以上

## 25年度活動記録

回数	月	日	講習場所名	講習内容	受講者数	協力会参加人数	消防職員参加人数
1	4	6	三嶋神社参集殿	応急手当	20	2	2
2		9	消防本部屋内訓練室	普通救命 I	18	4	
3		9	勤労会館	普通救命 I	50	5	3
4		11	三興製鋼事務棟5F会議室	普通救命 I	12	2	1
5		13	ミモザ湘南平塚施設内	普通救命 I	13	1	1
6		16	小松製作所T棟5F会議室	普通救命 I	29	2	2
7		20	ミモザ湘南平塚施設内	普通救命 I	11	2	1
8	5	1	湘南養護学校体育館	応急手当	84	5	6
9		9	消防本部屋内訓練室	普通救命 I	4	2	1
10		10	小松製作所T棟5階会議室	普通救命 I	18	1	1
11		12	総合体育館第二武道場	応急手当	50	7	2
12		14	勤労会館3F会議室	普通救命 I	38	3	2
13		15	勤労会館3F会議室	普通救命 I	41	3	2
14		16	勤労会館3F会議室	普通救命 I	22	2	2
15		17	勤労会館3F会議室	普通救命 I	29	2	2
16		19	ツクイ平塚事務室	普通救命 I	10	1	2
17		20	レストビラ湘南平塚	普通救命 I	15	1	2
18		21	日産車体ゲストセンター3階	普通救命 I	27	2	2
19		28	平塚養護学校体育館	応急手当	45	2	2
20		30	ろう学校体育館	応急手当	75	4	6
21	6	2	若宮ハイツ集会所	応急手当	45	5	1
22		4	サンガーデン湘南1階	普通救命 I	19	1	3
23		5	青少年会館2階集会室	普通救命 I	25	1	3
24		7	盲学校体育館	応急手当	50	5	2
25		9	屋内訓練室	普通救命 I	11	5	1
26		10	勤労会館2階中会議室	普通救命 I	34	2	2
27		11	青少年会館2階集会室	普通救命 I	32	2	3
28		12	青少年会館2階集会室	普通救命 I	38	2	3
29		13	青少年会館2階集会室	普通救命 I	35	2	3
30		14	青少年会館1階柔道室	普通救命 I	28	2	2
31		15	青少年会館2階集会室	普通救命 I	37	2	2
32		17	T棟5階会議室	普通救命 I	18	2	2
33		17	屋内訓練室	研修会		10	
34		19	神田交通東(東豊田)	普通救命 I	29	2	2
35		20	神田交通(東豊田)	普通救命 I	27	2	2
36		24	平塚税務署会議室	普通救命 I	19	1	2
37		29	ふじみ野自治会館	普通救命 I	20	2	2
38	7	2	青少年会館2F集会室	普通救命 I	92	6	4
39		4	平塚中等体育館	応急手当	50	2	4
40		5	柴田電気工業(総合体育館)	応急手当	40	3	2
41		8	小松製作所T棟5階会議室	普通救命 I	11	2	2
42		9	屋内訓練室	普通救命 I	12	5	1
43		13	平塚保育園内	普通救命 I	42	3	2
44		16	平塚農業高校体育館	応急手当	78	3	7
45		17	平塚農業高校体育館	応急手当	78	4	7
46		18	平塚農業高校体育館	応急手当	39	3	2
47		22	高浜高校体育館	応急手当	45	2	3
48		23	高砂研究開発本部大会議室	普通救命 I	19	1	2
49		24	第一三共プロファーマ体育館	普通救命 I	16	1	2
50		26	陽だまりの丘1Fフロアー	普通救命 I	18	1	2
51		29	吉沢公民館内	普通救命 I	19	2	2
52		30	平塚農業高校会議室	応急手当	25	4	2
			計		1662	143	52

回数	月	日	講習場所名	講習内容	受講者数	協力会参加人数	消防職員参加人数
53	8	3	保健センター2F	普通救命Ⅲ	5	6	3
54		5	シニアメゾン湘南平塚施設内	普通救命Ⅰ	10	2	2
55		6	小松製作所T棟5階会議室	普通救命Ⅰ	23	1	3
56		8	シニアメゾン施設内	普通救命Ⅰ	9	2	2
57		9	屋内訓練室	普通救命Ⅰ	19	3	1
58		19	リコーパーツセンター会議室	普通救命Ⅰ	17	1	3
59		25	平塚商業高校(イベント)	イベント	30	5	
60		26	高砂香料研究開発大会議室	普通救命Ⅰ	20	1	2
61		27	経済センター東棟2階会議室	普通救命Ⅰ	11	1	2
62		28	ネットヨタ奈川大会議室	応急手当	37	2	3
63		29	横内中学体育館	応急手当	20	1	2
64		30	関東冶金工業会議室	普通救命Ⅰ	21	1	2
65		31	城島公民館2階	普通救命Ⅰ	22	2	2
66	9	2	金田公民館ホール	応急手当	45	3	2
67		3	キャノン平塚事業所	普通救命Ⅰ	16	2	1
68		5	貴峰荘施設内	普通救命Ⅰ	35	3	2
69		7	おおぞら保育園内	普通救命Ⅰ	10	4	
70		8	日産遊人びあ会場イベント	イベント	30	4	2
71		9	屋内訓練室	普通救命Ⅰ	20	4	1
72		10	平岡幼稚園研修センター	応急手当	24	1	2
73		11	ふじみ園施設内	普通救命Ⅰ	25	2	2
74		13	神奈川大学構内イベント	自主事業	120	6	
75		17	小松製作所T棟5階会議室	普通救命Ⅰ	21	2	2
76		19	湘南地域県総合センター	普通救命Ⅰ	18	1	2
77		20	古川電工	普通救命Ⅰ	23	1	3
78		24	須賀公民館	普通救命Ⅰ	11	2	1
79		25	ふじみ園施設内	普通救命Ⅰ	17	1	2
80		27	パーソナルセンタートムトム	応急手当	24	1	2
81		28	花水公民館	普通救命Ⅰ	20	6	1
82		30	高浜高校体育館	応急手当	80	6	6
83	10	1	高浜高校体育館	応急手当	80	3	7
84		2	高浜高校体育館	応急手当	80	3	6
85		3	西部福祉会館集会室	普通救命Ⅰ	12	2	2
86		4	屋内訓練室	普通救命Ⅰ	13	1	1
87		7	中央公民館3階和室	普通救命Ⅰ	21	3	
88		8	小松製作所T棟5階会議室	普通救命Ⅰ	22	1	2
89		8	中央公民館3階和室	普通救命Ⅰ	16	2	
90		9	屋内訓練室	普通救命Ⅰ	20	4	1
91		10	須賀保育園内	応急手当	50	3	2
92		13	旭南公民館	応急手当	50	3	2
93		15	福祉会館1F集会室	普通救命Ⅰ	10	2	2
94		19	青少年会館2階集会室	普通救命Ⅰ	33	4	1
95		22	八幡小学校生活科室2	応急手当	24	2	1
96		26	保健センター	イベント	20	3	2
97		27	高根自治会館	応急手当	40	3	2
98		30	ふじの郷施設内会議室	普通救命Ⅰ	12	1	2
99		31	貴峰荘施設内	普通救命Ⅰ	41	3	2
計					1327	120	93

回数	月	日	講習場所名	講習内容	受講者数	協力会参加人数	消防職員参加人数
100	11	5	平塚保健福祉事務所	応急手当	60	4	2
101		7	わしんち元気平塚施設ホール	応急手当	46	2	3
102		9	屋内訓練室	普通救命 I	20	5	1
103		10	フィオーレ湘南真田施設	普通救命 I	27	3	2
104		11	小松製作所T棟5階会議室	普通救命 I	20	1	2
105		11	中央公民館3階和室(普通)	自主事業	13	2	
106		12	湘南ビューティーカレッジ	普通救命 I	18	1	2
107		14	屋内訓練室	普通救命 I	10	2	1
108		15	第一三共プロファーマ体育館	普通救命 I	27	3	1
109		16	屋内訓練室	応急手当	14	2	1
110		16	総合公園	イベント	30	5	1
111		17	立野町町内会館	普通救命 I	11	1	1
112		17	総合公園	イベント	30	8	1
113		19	山下小学校(PTA)	応急手当	22	2	2
114		22	校内教室	普通救命 I	13	1	2
115		22	屋内訓練室	研修		8	
116		29	ソーレ平塚施設内1階ホール	普通救命 I	12	2	2
117		30	平塚アリーナ会議室	普通救命 I	17	2	2
118	12	1	旭南公民館ホール	普通救命 I	23	3	1
119		3	関西ペイント	普通救命 I	26	2	2
120		5	鶴嶺幼稚園	応急手当	13	2	2
121		7	七国荘施設内ホール	応急手当	39	3	2
122		9	屋内訓練室	普通救命 I	12	4	1
123		10	小松製作所T棟5階会議室	普通救命 I	18	2	2
124		11	役員会	役員会		3	
125		12	湘南養護学校会議室	応急手当	16	2	2
126		17	ひらつか市民活動センター	普通救命 I	15	3	2
127	1	4	役員会	役員会		3	
128		9	屋内訓練室	普通救命 I	13	3	1
129		14	小松製作所T棟5階会議室	普通救命 I	31	2	3
130		21	湘南地域県総合センター	普通救命 I	15	1	2
131		24	ソーレ平塚	普通救命 I	12	2	2
132		27	役員会	役員会		3	
133		29	ふじの郷施設内会議室	普通救命 I	10	2	2
134		31	消防会議室	研修会		11	
135	2	2	フィオーレ湘南真田施設	普通救命 I	20	2	2
136		9	屋内訓練室	普通救命 I	5	6	1
137		11	小松製作所T棟5階会議室	普通救命 I	17	3	2
138		13	青少年会館	応急手当	12	1	2
139		16	田村自治会館	普通救命 I	25	2	3
140		18	古河電工NW棟1階中会議室	普通救命 I	22	2	3
141		21	ローズヒル会議室	普通救命 I	11	1	2
142		21	役員会	役員会		3	
143		22	富士見公民館	普通救命 I	33	4	2
144		23	パークサイド集会場	普通救命 I	20	3	2
			計		798	132	69

回数	月	日	講習場所名	講習内容	受講者数	協力会参加人数	消防職員参加人数
145	3	1	ひらつかアリーナ会議室	応急手当	18	2	1
146		2	岡崎公民館	普通救命 I	16	3	
147		3	江陽中学校体育館	応急手当	80	4	6
148		4	江陽中学校体育館	応急手当	80	3	8
149		5	大住中学校体育館	応急手当	70	3	6
150		6	青少年会館和室大	応急手当	12	1	2
151		7	大住中学校体育館	応急手当	60	3	7
152		8	大住中学校体育館	普通救命 I	37	4	2
153		9	屋内訓練室	普通救命 I	12	6	1
154		10	平塚中等体育館	応急手当	90	4	6
155		11	小松製作所T棟5階会議室	普通救命 I	19	2	2
156		13	近畿ツーリスト会議室	普通救命 I	11	1	2
157		17	ひらつかアリーナ会議室	普通救命 I	15	2	2
158		18	総合体育館(SCN)	普通救命 I	37	3	2
159		18	役員会	役員会		3	
160		19	平塚中等体育館	応急手当	60	3	7
161		20	総合体育館(SCN)	普通救命 I	33	3	2
162		25	高砂研究所会議室	普通救命 I	21	2	2
163		26	コマツ研究所会議室	普通救命 I	22	2	2
計					693	54	60

協力会参加講習会実施回数

普通救命講習	計 107回	内自主事業1回
応急手当講習	計 48回	内自主事業1回
役員・研修会	計 8回	
総計	163回	内自主事業2回

協力会員参加人数

普通救命講習	計 251人
応急手当講習	計 154人
役員・研修会	計 44人
総計	449人

協力会員参加講習会受講者数

普通救命講習受講者	計 2,250人
応急手当受講者	計 2,230人
総計	4,480人

## 平成25年度実施協働事業 決算報告書

	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収入	市の支出	265,000 円	248,629 円	-16,371 円	報償費 (交通費) 消耗品費 (ユニホーム購入費)
	団体の支出	72,000 円	67,350 円	-4,650 円	講習会時の飲料費
	事業収入				
	収入合計	A 337,000 円	B 315,979 円	B-A -21,021 円	
② 支出	報償費	240,000 円 (240,000)	224,500 円 (224,500)	-15,500 円	交通費 講習会会場までの往復代
	消耗品費	25,000 円 (25,000)	24,129 円 (24,129)	-871 円	講習会時着用ナイロンベスト (ユニホーム)
	食糧費	72,000 円 ( )	67,350 円 ( )	-4,650 円	講習会時の飲料費
		( )	( )		
		( )	( )		
		( )	( )		
		( )	( )		
	支出合計	C 337,000 円 ( 265,000)	D 315,979 円 ( 248,629)	D-C -21,021 円	
③	収支決算額 B 315,979 円 - D 315,979 円 = _____ 0 円				【備考】

※支出額の ( ) 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ひらつか応急手当協力会	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	応急手当普及・啓発事業	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	応急手当の必要性を多くの市民に広めることができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	消防救急課が窓口となり受講生を募り、双方で準備及び講師としての役割ができた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	講習内容を勉強会において協議し指導統一を行い、技術向上を図った。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	行政に対して勉強会の開催を依頼し講習会において学び得た技術等を市民に伝えることができた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	双方で実施することで希望に添える数多くの講習会に対応し、多数の受講生を受け入れることができた。 また、受講生からの質問等を共有し指導統一ができた。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

## (2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	応急手当の普及・啓発を行い多くの市民に応急手当の重要性の理解をして頂くことができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	多くの市民にサービス提供は十分にできたと思われるが、会員の目的地までの交通費が1回500円では、不足が出てしまうことがあった。また、ユニホームも薄いものであり既に劣化が見られる物も出ている。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 市民でもある応急手当普及員が講師を務めることで親しみが持て、質問もしやすいといわれた。講習終了後も熱心に質問される方もいました。

## (3) 実施したメリット

市民のメリット	応急手当を多くの市民に伝え、技術が普及し緊急時の対応ができる。
団体のメリット	行政が窓口となり広域から受講生を募ることができる。またガイドライン改正時にはいち早く技術を修得でき協力会会員各々がスキルアップできる。
市のメリット	多くの講習会の依頼に対応でき、協力会会員が対応することで女性や子供に対しても身近で親しみやすい十分な指導ができる。

## (4) その他、課題やその改善方法など

救命講習会の依頼は多くなったが、平日開催が多く協力会会員の指導者が限られてしまう。平日でも指導できる協力会会員を増やしたいが、なかなか難しい。

## (5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施 (□提案型 ■提案型以外)

□行政が単独で実施

□その他 ( )

□休止または終了

□団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

普通救命講習を継続し、団体活動の内容を市民に周知していく。また団体独自の活動も増やしていく。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	消防救急課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	応急手当普及・啓発事業	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	平塚市の安全安心を図ることを目的に応急手当講習会実施に向け、お互いに協働・共有できた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	行政は講習会の受付及び日程調整等の事前準備をした。 団体は講習会に出席する講師の人数調整及び受講者の指導を実施した。 団体と行政の役割が明確であった。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	講習会を実施するための協議や講習技術の個人差を埋めるため勉強会等を行い講師としての技術の統一を行った。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	行政は団体の要望により講習技術の統一を図るための勉強会を開催し、団体は行政の要望により、講習会に参加するなど対等な立場で事業が実施できた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	行政と団体で実施することにより、必要な講師の人数が確保でき、参加者の多い講習会が実施できた。また、講習内容の改正時には行政が団体に伝え、専門的な技術を共有する事ができた。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見



## B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	ひらつか応急手当協力会	担当課名	消防救急課
事 業 名	応急手当普及・啓発事業		

### (1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

平塚市における、救命率を向上させ「市民が安全に暮らせる町づくりのため」を共有の目的として、行政と団体がお互いの役割を認識し対等な立場で協働し、行政は講習会を実施することで、市民サービスの向上を図ることができ、団体は講習技術の向上など、お互いに利点がある。

課題や問題点については、その都度協議し解決を行っている。

このことにより、双方とも協働の視点については、同じ認識である。

### (2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

費用については、講習会場までの交通費及びユニホーム代で、普通救命講習（3時間）と応急手当講習（1時間30分）の講習会を年間約150件近く実施している。

効果については、毎年何件か救急車到着までに市民がAEDを使用した事例がある。また、受講者が増員することで、多くの市民が命の大切さや救命の必要性を理解することができる。

このことにより、事業の目的・目標を十分に達成できていると双方とも認識している。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

### (3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

協働事業を実施したことにより、行政は市民からの多数の講習会開催要望に対応できるようになり、市民は救命技術の習得、団体は行政との協働により信用性の向上や救命技術及び改正点の指導を受け、個人のスキルアップを図ることができた。

このことにより、市民・団体・市のメリットは十分であると思われる。

### (4) その他、課題やその改善方法など

講習会の申込みが多数となっているため、現在団体の負担が多くなっている。改善策として応急手当普及員の講習会受講者に団体への参加を促し団体の増員に努めているが、団体への参加者が増化することで、講習技術の格差や会員間の統制について問題が発生する恐れがある。

今後会員間の親睦を深めるための活動や個人の講習技術の格差を埋め統一を図るため、勉強会等を開催する。

### (5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施 (□提案型 ■提案型以外)

□休止または終了

□行政が単独で実施

□団体が単独で実施

□その他 (

)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

救命講習は救急隊が現場に到着するまでの救命処置を市民が行うことにより、救命率の向上を図るものであるため、市民の受講者を増やすことが必要となる。講習会を有料にすることで受講者の減少が懸念されるため、有料化による団体の自主財源の確保は難しいと考えている。

今後も双方で事業を実施することや団体独自の講習会を開催することで受講者の増員に努め平塚市における救命率の向上をめざします。

## 平成25年度実施 協働事業報告書

(宛先)  
平塚市長

団体名	多文化共生ひらつか情報局	
団体代表者	中野 恵子	印
事業担当課名	文化・交流課	
事業担当課長	岩崎 和子	印

平成25年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

## 記

事業名	外国籍市民支援放送事業		
事業開始年度	平成25年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	375,516円	内訳	市の支出 370,500円 ----- 団体の支出等 5,016円
事業の概要	<p>平塚市で暮らす外国籍市民等が多言語で情報提供を受けることにより安心・安全な生活環境を構築できるように、FM湘南ナパサで多言語放送をする。</p> <p>1 生活情報等 毎週火曜日 19時～20時（録音放送日あり）</p> <p>2 緊急時 行政・FM湘南ナパサスタッフと協力し、速やかに多言語で情報を発信する。</p> <p>放送原稿作成（コーディネーター2人） 放送キャスター（11人） 放送原稿の翻訳（データ化）（5人）</p>		
具体的な実施内容	<p>毎週火曜日 多文化共生ひらつか情報局による多言語放送（録音日あり） （1年間） 沖縄民族楽について放送 インド文化の紹介 年間参加者 13人</p> <p>平成25年4月 会員19名で協働事業開始</p> <p>平成25年6月 平塚市国際交流協会主催「平塚国際交流フェスティバル」にて、団体のPR、アンケートを実施。参加者 10人 平塚市通訳・翻訳ボランティアバンク連絡会にて、団体PR、アンケートを実施。参加者 7人</p> <p>平成25年10月 第7回ひらつかワールドフェア 雨天中止</p> <p>平成26年1月～3月 多文化共生ひらつか情報局賛助会員募集活動 （放送の必要性等を説明し商店街、商工会議所等を訪問する）</p> <p>平成26年2月 平塚市通訳・翻訳ボランティアバンク研修会に参加 参加者 8人</p>		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以上



## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	多文化共生ひらつか情報局	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	外国籍市民支援放送事業	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	外国籍市民にとって有益な生活情報を発信するという目的は十分達成できた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	行政と協働することによって、他の部所にも認識され協力してもらえた。 放送した内容を平塚市のホームページに掲載することができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	組織化、主財源の確保などについて協議実行し、一定の成果を上げることができた。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	事業の活動は湘南ナパサでの放送が主体となっているために、行政サイドについては、情報提供あるいはホームページ掲載などそれぞれの立場の活動ができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	情報の収集とそれをベースにした情報発信がそれぞれの分担により効果的にできた。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート →

C : 審査会の意見



## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	文化・交流課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	外国籍市民支援放送事業	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	団体と行政が双方で必要な事業であると認識し、情報発信に努めるとともに、多くの人達に事業の素晴らしさを理解、協力いただけるように対応できた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	コーディネーター、キャスター、翻訳者とそれぞれの役割は適正かつ迅速にできた。 現場とは別に事務局が明確でなかったが現在は対応できている。 行政のPRが若干弱かったように感じた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	3	メンバーの日常生活の都合で十分な協議ができておらず、協働事業の理解も十分ではなかったが、10月以降協議をする場を多くし、それぞれが意見を述べることで団体として意識が高まった。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	3	協働事業を開始する以前より「インタナショナル・ナパサ」としてボランティアで活動していた経験があるので、行政が協働でやることになっても行政の考えをうまく受け入れることが出来なかったが、協議を重ねることでお互いの立場を理解できるようになった。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	もともとあった外国籍市民支援放送事業のいままで培ってきた経験・知識・情報に、行政の助言・情報提供が加わり質の良い情報を提供できるようになった。 また、様々な形で理解をされるようになった。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見



## B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	多文化共生ひらつか情報局	担当課名	文化・交流課
事業名	外国籍市民支援放送事業		

### (1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

目的意識及び役割分担が明確になり、協働事業ができています。  
会員の日常生活等もあり会議（協議）の場を確保することが難しいのが現状ではあるが、少ない時間でも対応していくこととした。  
協議の内容等を整理し伝達することができていなかったのが新たに事務局長を設けメンバーに加入してもらった。

### (2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

自主財源確保のため賛助費募集活動を積極的に行い、協力・理解を得るよう努力していく。  
質の高い情報提供ができ、外国籍市民の評価を獲得できていると考えるが、聴取率を出すことが出来ないため数字で示すことができない。今後も、アンケート等で評価していきたいと考えている。  
現在の放送にかかわっている人達の謝金についても増額できるように様々な事業に参加して自主財源の確保に努める。  
放送は6ヶ国語で対応しているが他の言語でも（英語等）対応していきたい。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

### (3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

協議があまりできていなかった時期を乗り越え、お互いの関係が良好で相互の経験・知識・情報を共有できている。

この事業が継続することで、外国籍市民に正確な情報を提供できる。

### (4) その他、課題やその改善方法など

自主財源の確保が大きな課題となるが、賛助会員の募集活動を拡充し、この事業の協力者・理解者を増やしていく。

新たな放送事業にチャレンジをしていくことで問題を解決していきたい。

### (5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (  提案型  提案型以外 )

休止または終了

行政が単独で実施

団体が単独で実施

その他 (

)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

平成26年度は、行政との連携をさらに高め、現在の外国籍市民支援放送事業を拡充させ、災害放送にも積極的にかかわっていく予定です。

## 平成25年度実施 協働事業報告書

(宛先)  
平塚市長

	NPO 法人	
団体名	ひらつかエネルギーカフェ	
団体代表者	大嶋朝香	印
事業担当課名	市民情報・相談課	
事業担当課長	野川 栄一	印

平成25年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

## 記

事業名	食品の放射性物質簡易検査		
事業開始年度	平成25年度	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	713,970 円	内訳	市の支出 679,370 円 ----- 団体の支出等 34,600 円
事業の概要	<p>消費者庁及び独立法人国民生活センターから放射性物質検査機器1台の貸与を受け、市民からの依頼により市民が消費する食品（お米、野菜等）の放射性物質簡易検査を実施。消費者である市民の、食に対する不安解消を図る。</p> <p>2日/週、6件/週、検査員1名で実施。</p> <p>年度初に市民向け啓発用パンフレット、チラシを市と共同で作成、イベント等で配付するなどの検査周知に努めた。</p>		
具体的な実施内容	<p>検査機器をNPO法人ひらつかエネルギーカフェ内に設置し日常管理、検査体制を整備している。</p> <p>平成25年4月から平成26年3月までに、71件の検査を実施し、結果は70件が検出限界値未満であった。</p> <p>検出されなかった場合、ほとんどの依頼者（市民）は安心感を得、また測定値の意味について理解を深めることができたと思われる（アンケート回答より）。</p> <p>検出された1件は、自家栽培品で基準値を超えた数値であったが、食前に検査依頼して食べずに済んだという意味で、この制度が作られたことに感謝された。また、同作物の流通品について重点的に県の検査が実施されることになり、流通食品の安全が確保された。</p> <p>また、7月25日にソーラークッキング体験を通じてエネルギー問題、3月28日に親子で学ぶ放射能の基礎知識がテーマの講座を共催する等して、市民に広く知識の啓発及び制度の周知に努めた。</p> <p>市民活動団体が検査を目の前で実施し、市民自身で結果の確認ができるので、安心を強く実感することができている。</p>		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以上

## 平成25年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	833,000	679,370	-153,630	①負担金 (団体への支払) 500,000②保守費 313,000③消耗品費 20,000
	団体の支出	85,520	34,600	-50,920	団体の会計から支出
	事業収入	0	0	0	
	収入合計	A 918,520	B 713,970	B-A -204,550	
	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
② 支 出	検査機保守費	313,000 (313,000)	317,100 (317,100)	+4,100	定期点検 (年1回)
	検査事務用品等	20,000 ( 20,000)	27,870 (27,870)	+7,800	検査試料
	検査員謝金 (有償ボランティア)	224,000 (224,000)	58,400 (58,400)	-165,600	検査: 800円×73件 (再検査2件を含む)
	検査機設置費	276,000 ( 276,000)	276,000 (276,000)	0	設置費: 23,000円×12月/年、検査用光熱水費、校正費用等を含む
	検査員交通費	35,520 ( 0)	9,600 ( 0)	-25,920	往復800円×12日=9,600円
	団体側広報費	50,000 ( 0)	25,000 ( 0)	-25,000	親子教室講師謝礼等
		( )	( )		
	支出合計	C918,520 (833,000 )	D713,970 (679,370)	D-C-204,550 (153,630)	
③	収支決算額 B 713,970円 - D 713,970円 = 0円				【備考】

※支出額の ( ) 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	NPO 法人ひらつかエネルギーカフェ	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	食品の放射性物質簡易検査	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	消費者の「食に対する信頼」を回復するために、①身近な地方自治体である市レベルで、②市民が消費する食品（お米、野菜等）について、③市民が安心して依頼できる、そのような検査体制を整えることに協力して努めることができた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	受付、問合せ、結果の取扱い等については行政が行うことにより、また検査実務については専門的知識を持ち、より市民目線に近い団体が行うことにより、市民が利用しやすく信頼感のある情報提供を円滑に行うことができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	検査にあわせて随時意見交換を行い、検査をより広く市民に利用してもらう方法等について検討した。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	随時意見交換をするなど、お互いの要望意見を調整して円滑に事業を実施できた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	放射性物質検査機器は高額だが、市が国より借り受けることにより団体の負担は軽減された。また、市にはエネルギーの専門的知識を持つ担当がないが団体の専門的知識により実施できた。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

## (2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	多くの場合「市民の食に対する不安を解消する」ことに寄与できた。また放射能基準値を超える検体が1件あったが、この場合も食するのを未然に防ぐことができ、また同作物の流通食品に重点的に検査が行われる効果が得られた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	3	予定の検査件数を大きく下回り、1件当たりの単価としては高めになった。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	依頼者にアンケートをお願いした結果、満足であるとの回答が大半を占めた。

## (3) 実施したメリット

市民のメリット	市民活動団体が検査を目の前で実施し、市民自身で結果の確認ができるので、安心を強く実感することができる。
団体のメリット	市民への省エネ・創エネ相談に加え、行政と協働で行う放射能に関する情報提供は、市民ネットワークを拡大し、市民からの高い信頼性の確保に繋がった。
市のメリット	検査結果が基準値を超えた自家栽培品が1件あったが、消費されるのを回避でき、同作物の流通品について重点的に県の検査が実施されることになり、流通食品の安全が確保された。

## (4) その他、課題やその改善方法など

市民へ広く制度を周知し放射能への関心を風化させないためにも、親子対象の放射能教室の開催等、子供から大人まで未来に繋がる広報活動の充実を行政と団体間で検討し検査件数の拡大にも繋げたい。

## (5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (  提案型  提案型以外 )
  休止または終了  
 行政が単独で実施
  団体が単独で実施  
 その他 ( )

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

放射性セシウムの半減期は30年であり、また魚介類等への放射能汚染の顕在化はむしろ今後が心配されている。事故の終息、陸の除染の進行具合、漁の解禁時期など様々な要因が考えられるが、何時までに検査を止めるというより、検査依頼が少なくなるまでは続けるという計画で進めることが必要と考える。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	市民情報・相談課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	食品の放射性物質簡易検査	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	市民の食品に対する不安と放射能への理解を検査や情報提供することにより共有できた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	受付、問合せ、結果の取扱い対応については行政が行うことにより、市民が利用しやすい情報提供も円滑に行えた。検査については専門的知識を持ち、より市民目線に近い団体が行うことにより市民の安心感が生まれた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	定期的ではないが検査にあわせて随時意見交換を行い検査の拡大等について検討した。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	随時意見交換をするなど、お互いの要望意見を調整して円滑に事業を実施できた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	放射性物質検査機器は高額だが、市が国より借り受けることにより団体の負担は軽減された。また、市にはエネルギーの専門的知識を持つ担当がないが団体の専門的知識により実施できた。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

## (2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	「市民の食に対する不安を解消する」ことができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	3	予定の検査件数を大きく下回り、1件当たりの単価としては高めになったが、放射能基準値を超える検体1件判明し食するのを未然に防ぐことができ、同作物の流通食品重点的検査が行われ効果が得られた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など依頼者にアンケートをお願いした結果、満足であるとの回答が大半を占めた。

## (3) 実施したメリット

市民のメリット	市民活動団体が検査を目の前で実施し、市民自身で結果の確認ができるので、安心を強く実感することができる。
団体のメリット	市民への省エネ・創エネ相談に加え、行政と協働で行う放射能に関する情報提供は、市民ネットワークを拡大し、市民からの高い信頼性の確保に繋がった。
市のメリット	検査結果が基準値を超えた自家栽培品が1件あったが、消費されるのを回避でき、同作物の流通品について重点的に県の検査が実施されることになり、流通食品の安全が確保された。

## (4) その他、課題やその改善方法など

市民へ広く制度を周知し放射能への関心を風化させないためにも、親子対象の放射能教室の開催等、子供から大人まで未来に繋がる広報活動の充実を行政と団体間で検討し検査件数の拡大にも繋げたい。

## (5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施 (■提案型 □提案型以外)

□行政が単独で実施

□その他 ( )

□休止または終了

□団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

放射性セシウムの半減期は30年であり、また魚介類等への放射能汚染の顕在化はむしろ今後が心配されている。事故の終息、陸の除染の進行具合、漁の解禁時期など様々な要因が考えられるが、何時までに検査を止めるというより、検査依頼が少なくなるまでは続けるという計画で進めることが必要と考える。

## B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	NPO 法人 ひらつかエネルギーカフェ	担当課名	市民情報・相談課
事業名	食品の放射性物質簡易検査		

### (1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

団体・行政、各々の評価を確認したところ「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点など共有事項が多く、今後も引き続き団体・行政間でよく話し合いながら、事業を進めていきたいと考えています。

### (2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

団体・行政、各々の評価を確認したところ「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点など共有事項が多く、今後も引き続き団体・行政間でよく話し合いながら、事業を進めていきたいと考えています。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

### (3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

団体・行政、各々で確認したところ「市民・団体・市のメリット」について同様に考えており、今後も引き続き団体・行政間でよく話し合いながら、事業を進めていきたいと考えています。

### (4) その他、課題やその改善方法など

団体・行政、各々で確認したところ「その他、課題やその改善方法など」について同様に考えており、今後も引き続き団体・行政間でよく話し合いながら、事業を進めていきたいと考えています。

### (5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外） 休止または終了  
行政が単独で実施 団体が単独で実施  
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

放射性セシウムの半減期は30年であり、また魚介類等への放射能汚染の顕在化はむしろ今後が心配されている。事故の終息、陸の除染の進行具合、漁の解禁時期など様々な要因が考えられるが、何時までに検査を止めるというより、検査依頼が少なくなるまでは続けるという計画で進めることが必要と考える。

## 平成25年度実施 協働事業報告書

(宛先)  
平塚市長

団体名	湘南NPOサポートセンター		
団体代表者	横田 裕		印
事業担当課名	中央公民館 協働推進課		
事業担当課長	遠藤 正人		
	鈴木 千代治		印

平成25年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

## 記

事業名	協働による地域づくり事業～地域課題解決に向けた市民活動団体との連携～ (ひらつか地域づくり市民大学)		
事業開始年度	平成25年度～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	431,865 円	内訳	市の支出 340,000 円 ----- 団体の支出等 101,865 円
事業の概要	<p>地域の中の様々な団体・機関等をコーディネートし、地域経営の視点を持ちながら、ニーズに基づいた計画的な地域づくりを推進することができるコーディネーターの養成を目的として、「ひらつか地域づくり市民大学」を開講しました。全5回の講座のうち、初回は無料公開講座として開催し、残り4回の講座については、講義にグループワークを取り入れながら開講しました。</p> <p>また、地域での人材バンクの構築に向けて、既存の制度に対する提言をいただき、制度の改善の検討を進めました。</p>		

具体的な  
実施内容

実施年月日、実施  
内容、参加者等  
をご記入ください。

**【第1回】「今、地域づくりを考える」**

平成25年9月1日(日) 13:30~16:00

会場：平塚市中央公民館 4階小ホール ※公開講座：参加者66名

▼講演：「自治を回復し、まち・むらの課題を、まち・むらの力で解決するために～協働と総働の基礎を再確認する～」

講師：川北秀人氏 IHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表

▼ワークショップと質疑応答「どのような団体・機関と連携できるか探そう」

**【第2回】「地域活動の現状とコーディネーターのあり方」**

平成25年9月26日(木) 13:30~16:00

会場：平塚市中央公民館 3階大会議室 ※参加者：27名

▼説明：「まちづくり」って何だろう？～まちづくりセンターの構築に向けて～

担当：平塚市協働推進課・平塚市中央公民館・平塚市福祉総務課の職員

▼ワークショップと意見交換「課題を知る・調べる」

**【第3回】「事例から学ぶ地域づくり」**

平成25年10月10日(木) 13:30~16:30

会場：平塚市中央公民館 4階4A講義室 ※参加者：25名

▼事例報告1：田村地域の取り組み 報告者：「わたしの田村」運営委員会のみなさん

事例報告2：岡崎地域の取り組み 報告者：岡崎公民館運営委員・岡崎公民館主事

コーディネーター：泉 一弘氏 NPO法人ふらっとステーション・ドリーム理事長

▼ワークショップと意見交換「目的の共有・地域資源の確保」

**【第4回】「地域づくりのコツと事務局の役割」**

平成25年10月24日(木) 13:30~16:30

会場：平塚市中央公民館 4階4A講義室 ※参加者：25名

▼講義：「地域づくりのコツと事務局の役割」

講師：泉 一弘氏 NPO法人ふらっとステーション・ドリーム理事長

▼ワークショップと意見交換「仲間を増やす・計画を立てる」

**【第5回】「コーディネート力をつけよう」**

平成25年11月7日(木) 13:30~16:00

会場：平塚市中央公民館 4階4A講義室 ※参加者：26名

▼ワークショップ「目に見える事業にする・地域へ拡げる」

▼講評と講義「コーディネート力をつけよう」協働してまちの課題に取り組むために

コメンテーター：吉原 明香氏 NPO法人市民セクターよこはま理事

▼親睦会 講座を振り返って

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以上

## 平成 25 年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	340,000	340,000	0	負担金 340,000 円
	団体の支出	30,000	44,965	14,965	資料作成費 23,000 円、講師お土産代 8,200 円 (5 名分) 交通費 12,640 円 (380 円@5 回@1 名、560 円@5 回@1 名、540 円@5 回@2 名、540 円@1 回@1 名、500 円@2 回@2 名) 親睦会負担金 828 円 報告書作成費 297 円
	事業収入	60,000	56,900	-3,100	講座参加費 30,000 円 (1000 円@30 名)、親睦会会費 17,000 円 (500 円@34 名、視察見学会費 9,900 円 (1100 円@9 名)
	収入合計	A 430,000	B 441,865	B-A 11,865	
② 支 出	講座運営費	304,000 (244,000)	346,545 (244,977)	42,545	資料作成費 125,477 円、講座運営費 60,000 円、講師謝礼 50,000 円、ファシリテーター費 62,500 円、交通費 12,640 円、講師お土産代 8,200 円、親睦会費 17,828 円、視察見学会費 9,900 円 ※人件費明細別紙
	広報費	32,000 (32,000)	31,330 (31,330)	-670	チラシ印刷費 12,930 円、チラシデザイン制作費 18,400 円 (800 円@18h、800 円@5h)
	事務費	4,000 (4,000)	6,753 (6,753)	2,753	模造紙 1,848 円、封筒代 494 円・231 円、インク代 4,180 円
	調査研究費	54,000 (24,000)	20,940 (20,940)	-33,060	視察交通費 4,940 円、調査研究費 16,000 円 (800 円@6h@3 名、800 円@2h@1 名) ※図書は購入せず
	報告書作成費	36,000 (36,000)	36,297 (36,000)	297	報告書作成費 32,800 円 (800 円@4h@1 名、800 円@6h@1 名、800 円@2h@2 名、800 円@26.6h@1 名) DVD 費 3,097 円、講師原稿確認郵送費 400 円
		( )	( )		
	支出合計	C 430,000 (340,000)	D 441,865 (340,000)	D-C 11,865	
③	収支決算額 <u>B 441,865 円</u> - <u>D 441,865 円</u> = <u>0 円</u>				【備考】

※支出額の ( ) 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	特定非営利活動法人 湘南 NPO サポートセンター	■ 団体 □ 行政
事業名	協働による地域づくり事業 ～地域の課題解決に向けた市民活動団体との連携 (ひらつか地域づくり市民大学)	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	地域課題の解決のための地域コーディネーター養成という難しい目的に対して、アプローチ方法、想定される参加者の選定、講座の開設、アフターフォローという一連のカリキュラムを策定するに当たり、共に意見を交換し合い、目的を丁寧に共有できたと考えます。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	行政とNPO団体という特色を活かしながら、「役割を分担」できたと感じています。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	必ず、事前の打ち合わせを、行うことで、協議し意見交換する場面をつくれたことは、相互理解に資するものでありました。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	どちらかの意見に偏ることもなく、お互いの意見があろうとも、話し合いで解決できる良好な関係を維持できたことは、双方の立場の特色を生かし、「対抗的相補性」を実現し、より良いものにしてきたプロセスにこそ意義がありました。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	行政の信頼性とNPO団体の先進性・先鋭性が融合し、生きている地域を対象に事業を行うことは、当該事業のような推進にはとてもマッチしていたのだと感じています。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

## (2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	地域課題を解決するための地域コーディネーターの育成は、地域の理解と地域行政政策の整理の上に展開をする必要があり、その意味では、「今後の地域経営の観点からの基本スタンス」を地域に発信できたことは評価され、人材育成に関しては、今後の評価を待ちたいと考えます。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	講座では、著名な講師陣より平塚市の高齢化率やまちの課題、他市の地域づくりの先進事例等を紹介していただくなど、地域づくりの参考になりました。また地域コーディネーターの役割や必要性を理解していただくなど、十分な効果が得られたと考えます。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	5	アンケートの結果、アフターフォローの情報交換会でも受講者の満足度は高く、良好なものであったと感じております。

## (3) 実施したメリット

市民のメリット	協働で行うこと自体、このような事業の場合、これからの地域の在り方を示唆するものであり、行政と市民が力を合わせ、地域づくりを展開する必要性をアピールできたのではないかと考えております。
団体のメリット	自治会や公民館を通じて、地域の受講生を集めたり、公的な会場を手配したりすることは団体単独では難しく、行政との協働事業の成果であると考えております。
市のメリット	地域、特に自治会等の方々にこれからの地域の在り方等を諮問してゆくことは難しい点もあり、同じ市民の立場での地域市民である NPO 等を通じて同じ目線で考えてゆくことはとても有意義なのではないかと考えております。

## (4) その他、課題やその改善方法など

「公民館のまちづくりセンター化」という大きなまちづくりの政策的課題と「地域コーディネーターの養成」という人軸での育成課題が存在し難しいが、今後の地域経営に大きな示唆を与える事業でありました。とても大切な事ゆえ、今後の丁寧でわかりやすい方針の打ち出しが必要であると考えています。また今後、当該継続事業を実施する NPO、市民活動団体があるとするれば、「地域の方々との調整こそ必要」で、そのような現場へ赴き、関係作りをするための調整、調査のための労働対価も算定すべきであると考えます。

## (5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型  提案型以外）
  休止または終了  
 行政が単独で実施
  団体が単独で実施  
 その他（ パートナーとしての互惠関係の元、地域でのサポート事業を展開する予定 ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

現在、コーディネーター養成講座の他に、地域での個別的支援の方法を協議中。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	中央公民館・協働推進課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	協働による地域づくり事業 ～地域の課題解決に向けた市民活動団体との連携 (ひらつか地域づくり市民大学)	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的は共有」できましたか。	5	市と団体が協働して、地域課題解決のために地域コーディネーターの養成を目指す目的を共有し、事業を進めることが出来ました。
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	お互いが得意とする役割を分担することにより、スムーズな事業運営が出来ました。
③ 「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	延べ15回以上にわたる打ち合わせを開催、お互いの考え方を伝え合い、相互理解が図られました。
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	事業の実施にあたっては、お互いの立場を尊重でき、極めて良好な関係を築けました。
⑤ それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	共に事業を進める中で、お互いの優れた点を確認し合うことが出来ました。それらの点を自己に取り入れようと意識することにより、今後の事業展開の参考になりました。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

## (2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
① 事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	地域課題の解決に向けて、多くの受講者に参加いただき、より実践的な講座を開催できました。人材バンク構築に向けての研究については、新規に始めた制度を受けての提言となりました。
② 事業で「経費に見合うサービスの提供 (費用対効果)」が得られましたか。	4	全国や県内で実績のある講師を招聘することができ、受講者にとって貴重な経験となりました。
③ 事業業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など  毎講座の終了後に実施したアンケートの結果からも、受講者の満足度は高く、アフターフォローで開催した情報交換会でも前向きな御意見をいただきました。

## (3) 実施したメリット

市民のメリット	市・団体が単独で実施する講座より、より充実したハイレベルな講座を受講することが可能となりました。
団体のメリット	受講者募集を市の広報など、様々な媒体を活用した結果、多くの受講生に参加していただきました。
市のメリット	市では持ち合わせていない団体間のネットワーク等を活用でき、有意義な講座が開催できました。

## (4) その他、課題やその改善方法など

講座を実際に開催している時、行政職員としての立ち位置が難しく、受講者との議論に加わることが最低限になってしまいました。

→団体と早めに相談し、関わり方を明確にしておく必要があります。

## (5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (  提案型  提案型以外 )

休止または終了

行政が単独で実施

団体が単独で実施

■ その他 (26年度は協働事業の形態はとらないが、お互いをパートナーとして地域コーディネーターの養成講座を開講予定)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

回答欄のとおり。

コーディネーター養成講座の他に、地域での個別的支援の方法を団体と検討中。

## B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	特定非営利活動法人 湘南 NPO サポートセンター	担当課名	中央公民館・協働推進課
事 業 名	協働による地域づくり事業～地域の課題解決に向けた市民活動団体との連携 (ひらつか地域づくり市民大学)		

### (1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」については、双方とも評価が一致し、十分な体制で事業を行うことができ、成果が上がったと考えています。

「相互評価や波及効果」についても、評価点に若干のずれはありますが、双方の優れた点を生かした事業展開が出来たという点では一致しております。

26年度は協働事業の枠組みから離れますが、今後もこれまでに培った信頼関係に基づき、事業（地域づくり市民大学等）を継続して実施していきたいと考えています。

### (2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

団体と行政がお互いをパートナーとし事業を進めたことにより、受講者には満足度の高い内容を提供できたと考えています。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

### (3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

市民のメリット:行政と市民が力を合わせ、地域づくりを展開する必要性を考えたこと、また充実したハイレベルな講座を受講することができました。

団体のメリット:市の広報など様々な媒体を活用した結果、多くの受講生が参加でき、また公民館など公的な会場の手配が円滑にできました。

市のメリット:市民活動団体を通じて、市民と同じ立場・目線で考え、市民活動の団体間のネットワーク等を活用できました。

### (4) その他、課題やその改善方法など

地域運営に大きな影響を与える政策的課題「公民館のまちづくりセンター化」と人材育成課題「地域コーディネーター養成」が存在するため、今後、丁寧なわかりやすい方針が必要です。市・団体が協議し、双方の関わり方を明確にしておく必要があります。

### (5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施（提案型 提案型以外）

休止または終了

行政が単独で実施

団体が単独で実施

■その他（26年度は協働事業の形態はとらないが、お互いをパートナーとして地域コーディネーターの養成講座を開講予定）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

コーディネーター養成講座の他に、地域での個別的支援の方法を検討中です。

## 平成25年度実施 協働事業報告書

(宛先)  
平塚市長

団体名	平塚のら猫を減らす会	
団体代表者	小山 昇	印
事業担当課名	環境政策課	
事業担当課長	二宮 直子	印

平成25年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

## 記

事業名	「地域猫」への取り組み		
事業開始年度	平成23年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	191,080 円	内訳	市の支出 114,000 円 ----- 団体の支出等 77,080 円
事業の概要	<p>①「地域猫」とは  <b>野良猫</b>をエサの管理、不妊去勢手術の徹底、フンの清掃、周辺美化など地域のルールに基づいて適切に飼育管理し、<b>野良猫</b>の数を増やさないで一代限りの生を全うさせることで地域住民の認知を得られた猫のことである。          &lt;地域のルール&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>エサやりの時間・場所を決め、後始末を必ずする。</li> <li>エサ場周辺に猫用トイレを設置し、清掃をこまめにする。</li> <li>不妊・去勢手術を徹底する。</li> <li>地域内で話し合いを重ね、世話に対する住民の理解を得ること。</li> <li>飼育責任者を明確にし、地域で責任を持つこと。</li> </ol> <p>②数年前に、NHKによる「ご近所の底力」という番組が「地域猫」による「<b>野良猫</b>問題解決法」をテーマにした放送を行った。内容としては、<b>野良猫</b>を地域の合意のもとで不妊・去勢手術・糞尿の清掃・エサの管理等を行い、猫を嫌いな人・好きな人・無関心な人が地域の問題として関わり、地域のコミュニティの構築を図る事例であった。この番組を参考に、「地域猫」活動を通じて、希薄になった地域のコミュニティの再構築を目指していく。</p> <p>③「地域猫」には二つの活動方法がある。「自治会ぐるみ」で行う場合と3人以上のグループでリーダーを決めて自分達で管理できる<b>野良猫</b>のみ行う方法である。いずれも自治会・町内会の承認を得て取り組む必要がある。</p> <p>④「地域猫」活動の定着を図るため、行政との連携を強化してお互い役割を明確にして責務を果していく。又、固有の法律を持たない、<b>野良猫</b>問題を学習するため関係者の講習会、専門講師の講演会等を行う。</p>		

**具体的な  
実施内容**

実施年月日、実施  
内容、参加者等  
をご記入ください。

別添、『「地域猫」への取り組み 今までの経緯等』参照のこと。

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

「地域猫」への取り組み 今までの経緯と今後の予定

<大島>

・大島自治会館と隣接した大島八幡神社境内に猫が5～6匹捨てられており、近隣住民の庭にフンをしたり、鳴き声がうるさいなどの被害が発生し、自治会長より相談があった。

平成22年10月15日 自治会長より電話で相談あり。

平成22年10月26日 自治会三役と周辺住民、減らす会、市環境政策課職員による打ち合わせを実施する。地域猫に関する説明を行う。  
猫を管理する人が決まったものの、神社の敷地内ということもあるので、総代を交えて再度説明会を行うこととなった。

平成22年11月5日 総代・自治会組長会議に同席し、改めて神社境内の猫の現状と地域猫の説明を実施する。エサやトイレの管理について、2名の住民が協力してくれることとなった。

平成22年12月21日 自治会長宅にて猫の管理者、減らす会代表と市環境政策課職員で報告会を行う。トラブル等は特段ないが、管理者以外にもエサを与えている人がいるとのことであったので、境内に看板を設置する。

平成23年2月中旬 協力者より電話連絡あり。神社境内敷地内に防犯灯が設置され、境内敷地内が夜でも暗くなくなったとのこと。また、「大島のタイガーマスク」を名乗る匿名の人物から猫のエサの寄付があったとのことであった。

～今後～ 大島自治会長が平成23年4月で変更されたので、新自治会長にも改めて地域猫の説明をする予定である。また、神社以外に猫に関するトラブルがあれば同様に解決を目指していく。

平成23年7月12日 大島自治会長（新自治会長）宅訪問し、神社においての地域猫活動についての説明をする。減らす会代表、野良猫の管理者2名、市環境政策課職員同席。前会長から引き継ぎを受け、地域猫についても既に勉強済みであるとのことであった。今のところ、神社境内及び付近で新たなトラブル等はなく、野良猫の管理は順調であるとの報告を受ける。

<田村8丁目>

・一戸建ての市営住宅の跡地。住んでいた住民が野良猫にエサを与えており、その後住宅が取り壊されてしまったものの、敷地に野良猫が集まり、近隣の畑や住居にフンをさしてしまうなどのトラブルが発生しているもの。

- 平成22年10月27日 減らす会会員より相談あり。野良猫にエサをあげている人が近隣住民から責められているとのこと。エサをあげている人は精神疾患を患っており、入退院を繰り返すこともあるとのこと。今後、野良猫を減らすためにどうしたらよいかとの相談であった。
- 平成22年11月24日 エサをあげている本人から相談あり。内容は上記と同様。
- 平成22年12月10日 減らす会代表と市環境政策課職員で現場調査実施。エサを与えている人、近隣住民も同席。近隣住民からフン害の被害がひどいとの苦情が続出する。トイレの設置について検討する。その後、エサをあげている土地が市の所有地のため、担当課の了解を得たうえで、猫用トイレの設置を行うこととした。
- 平成22年12月20日 減らす会会員と市環境政策課職員で敷地内に猫用トイレの設置を行う。近隣住民にも説明し、様子を見てもらうよう説明する。
- 平成23年1月17日 自治会長宅にて田村での経緯と今後についての説明を行う（減らす会代表、市環境政策課職員、議員同席）。市の土地のため、今後売却等で使用できない可能性がある。少しずつエサやりやトイレの場所を移動し、河川敷等で地域猫活動をする旨説明する。自治会長より、近日中に組長会議にて説明をしてくれるとのこと。
- 平成23年2月10日 自治会長へ連絡。平成23年1月31日に組長会議が開かれ、自治会長より説明を行ったとのこと。組長たちからは賛同の意見があり、それならば協力するとの返事であったとのこと。
- 平成23年6月16日 田村8丁目自治会長・田村宮の前自治会長と面談。改めて地域猫についての説明を行った。
- 平成23年11月1日 田村8丁目住民より再度連絡あり。猫用のトイレを設置したが、改善していないとのこと。また、トイレとして砂を入れたプランターを設置したが、そこにゴミが捨てられてしまっているとのことであった。（同日、建築住宅課職員により撤去）
- 平成23年11月5日 田村宮の前住宅自治会館にて、田村住民約20名を集め、田村8丁目の野良猫について再度協議する。結果、敷地の土を耕し、トイレ代わりにして管理することで同意を得ることができた。
- 平成23年11月12日 田村8丁目敷地内でトイレ代わりとして、敷地内の土を耕す。（管理者の建築住宅課とは事前に調整済み）
- 平成23年12月14日 平塚のら猫を減らす会代表と現場調査を実施する。敷地内で猫のフンを確認した。また、数匹の猫は敷地内でフンをしているところも確認ができた。

～その後～

土が柔らかくなったため、猫がトイレ代わりに使用するようになり、畑へのフン害が減ったとの連絡あり。

エサやりについても、片づけ等徹底しているため、トラブルが激減した。

<龍城ヶ丘>

・数年前から龍城ヶ丘市営住宅付近で野良猫の不妊・去勢手術活動をしている減らす会会員が高齢になり、管理しきれない可能性があるとのこと。今後地元の協力者等、理解してもらったうえ、地域猫活動に結び付けられないかという相談。

平成23年5月31日 自治会長、減らす会、市環境政策課職員で現場調査を行う。猫は特になかったものの、夕方になると市営住宅周辺の駐車場に集まってくるとのこと。自治会長に対し、地域猫の説明をするとともに、必要であれば組長会議等で説明する旨伝える。

<立野町>

・数年以上前から、野良猫にエサを与えている住民がいて、近隣や公園などでのフン害に悩まされている。猫の数が十数匹との情報もあり、住民へ何度か自治会長が接触するも、解決しない。

平成23年7月28日 市民活動センターにて立野町自治会へ地域猫についての説明会を行う。自治会長は地域猫活動に一定の理解を示してくれた。今後、組長会議等で説明する旨伝える。

～その後～

保健所職員と共に、エサやりの住民宅へ訪問し、地域猫活動についての説明や現場調査を実施するも、住民本人とは電話でのみ接触できたにとどまった。また、自治会長の急逝等により、平成23年度は現状把握をしたのみであった。

<岡崎>

・岡崎の市営住宅に住んでいる人が野良猫にエサを与えているとのこと。のら猫を減らす会で訪問し、不妊・去勢手術の案内をしたものの、あまり理解を示してくれないという。また、このことで近隣ともトラブルとなっているため、住民同士と話し合っただけで地域猫に結び付けられないかと言う相談。

- 平成24年6月24日 のら猫を減らす会より連絡あり。野良猫にエサをあげている人がいるとの相談を受け、現場調査して不妊・去勢手術の案内をしたものの、あまり理解をしめしてくれないとのこと。現場調査をしてほしいとのことであった。
- 平成24年7月2日 市環境政策課による現場調査を実施するも、野良猫の姿は確認できず。
- 平成24年7月4日 市議会議員より相談あり。野良猫にエサをあげている住民が家の中に猫を保護しているとのこと。また、猫は妊娠中で出産後に里親を探すつもりであるが、見つからない場合は遺棄する可能性があるとのこと。現場に行ってもらいたいとのことであった。
- 平成24年7月17日 再度、市環境政策課による現場調査を実施する。住民宅を訪問し、不妊・去勢手術の案内をし、了承を得られる。
- 平成24年10月上旬 再度市議会議員から相談あり。一度、岡崎の自治会長を含め住民たちと野良猫の今後について話し合う機会を設けたいとのこと。なお、開催にあたって、のら猫を減らす会と市環境政策課、建築住宅課の各職員も同席してほしいとの依頼であった。
- 平成24年10月12日 市環境政策課、建築住宅課職員、市議会議員、のら猫を減らす会、住民による話し合いが実施される。当日になり、自治会長を含めた役員が「この問題は地域の問題でなく、野良猫にエサをあげている人、困っている人個人の問題である」ことを理由に欠席してしまったため、猫好きな人と嫌いな人、困っている人などの価値観の違う住民同士が言い争うだけの話し合いに終わってしまう。
- 平成24年10月16日 市議会議員来所。今後については、市から自治会長に対して話し合いをするよう働きかけをしてほしいとのこと。市から依頼等があれば、自治会の役員は打ち合わせに参加してくれるとのことであった。

#### <馬入本町>

・馬入本町で野良猫が増えている。お寺の境内にも多数生息していて、また他の地域にもいるとのこと。のら猫を減らす会のメンバーが自治会長や住民に対して既に説明をしている状態であるが、一度行政も参加した打ち合わせを開きたい。

- 平成24年9月27日 松原公民館にて自治会長と役員数名、環境政策課職員とのら猫を減らす会で打ち合わせをする。地域猫制度には理解を示してくれたものの、役員を集めての会議等は経験がなく住民が混乱

してしまう恐れがあるため、まずは回覧等で周知し、反応を見たいとのことであった。市環境政策課で回覧の原案を作り、メール等で送付し、回覧することとなった。

平成24年10月11日 何度か自治会長とメールをやりとりし、回覧文書を送付する。

#### <北金目>

・自宅で野良猫にエサをあげている人がいて、近隣とトラブルになっている。エサをあげている人は80歳前後の認知症と思われる女性。夫がいるが、夫は要介護度がついている。息子が2人いるものの、あまり関わりがない。猫は数十匹いるとの報告がある。また、同じ地区内の魚屋周辺にも野良猫が多数生息しており、自治会内で問題となっている。

平成23年11月22日 平塚保健福祉事務所環境衛生課職員より連絡あり。個人宅で野良猫にエサをあげている人がいて、近隣宅でフン害が発生しているとの苦情が寄せられたという。現場調査への同行を要請されたため、保健所職員と市環境政策課職員とで現場調査を実施する。自宅周辺に6～7匹の猫がうろついていて、車庫の中や自宅前の道路にもフンがされている状態であった。エサをあげているという女性に事情を聴き、補助金制度の説明やボランティアへの連絡を助言した。

訪問の際、保健所職員より女性に認知症の症状がある可能性があるとの助言を受けたため、帰庁後「平塚市高齢者よろず相談センターひらつかにし」（以下、「包括」という。）に情報提供する。包括でも訪問調査等を実施して下さるとのこと。

平成24年6月24日 市議会議員より相談あり。同じ北金目の地区内（上記住宅から直線距離で約100メートルの距離）に魚屋があり、その店主が野良猫にエサをあげているとのこと。現場確認の依頼であった。

平成24年7月2日 市環境政策課職員2名で現場調査を実施する。魚屋の店主から話を聞くことが出来た。店主は特にエサをあげていないが、魚屋なので猫が寄ってきてしまうとのことであった。10匹近くはいるのではないかとのこと。店舗北側の梅林の中に野良猫が数匹いたことを確認。店主には補助金制度の説明をした。

平成24年7月12日 包括の職員からの呼び掛けにより、女性宅の今後について話し合う「地域ケア会議」を地元自治会館で実施する。包括職員、市環境政策課職員、市高齢福祉課職員、女性のケアマネ、ヘルパー、自治会長、自治会役員、地元住人等、合計20人前後が

出席。女性宅の家族の内容よりも、野良猫の話題でほとんどを占める。野良猫の補助金制度や、野良猫の生態等を説明し、今後、市民団体を含めた協議をすることとした。なお、住民からは、女性宅への協力は惜しまない旨の返答があったものの、女性宅があまり自治会に協力的ではないので、困っているとのことであった。

平成24年7月24日

平塚のら猫を減らす会代表と市環境政策課職員2名で女性宅、女性宅周辺の現場調査を実施する。相変わらず、女性宅の車庫に多数の野良猫がいる状態であった。本人に話を聞くも、近いうちにこの猫は九州の親戚が引き取るので問題ないと話す。エサ箱が外に置きっぱなしであったため、あげた後はすぐにしまうよう伝えた。その後の周辺調査においても、複数の野良猫を確認した。また、周辺の住民からも野良猫にフンをされて迷惑しているとの意見を聞いた。続いて魚屋周辺も車で回り、猫が数匹いることを確認した。代表と協議し、自治会長含めた近隣住民で再度話し合いの場を設けることとした。

平成24年9月10日

平塚のら猫を減らす会の会員数名、包括職員、ケアマネ、市環境政策課職員、自治会長等含めた住民の20人前後で北金目地区の野良猫対策の今後についての話し合いを実施する。

再度、野良猫の生態や、地域猫の制度説明をした。女性の家庭状況等を考慮し、個人で対応することは不可能と判断、団体が猫の捕獲・手術を実施し、自治会で手術代やエサ代等の費用を捻出するということを決める。なお、魚屋周辺についても同様とし、双方とも近日中に手術を実施することとした。

なお、女性に対しては説明しても翌日には記憶に残っていない可能性等があり、女性の夫に対して、普段から生活に深く関わっているケアマネと包括職員から説明し、了解を得ることが決まった。

話し合い終了後、魚屋の店主にその旨説明したところ、手術のための捕獲については協力してくれるとのことであった。

平成24年9月17日

平塚のら猫を減らす会による、不妊・去勢手術のための捕獲を実施する。女性宅では女性が野良猫を捕獲することを不安に感じてしまったらしく、女性の夫が激昂してしまったため、思うように捕獲作業が出来なかったとのこと。魚屋と合わせて、6匹の手術を実施した。猫はまだまだ生息しているため、日を改めて実施することになったとのこと。

平成24年10月10日

再度女性宅で捕獲作業を実施。作業の終盤に市環境政策課職員

も現場に行く。女性と夫とも話をすることができ、捕獲については了承を得ることが出来た。8匹について手術を実施した。また、捕獲の際に女性宅内で4匹の子猫を発見したため、里親を募集するために、代表宅に引き取られることとなった。

平成24年10月11日 包括職員より、1匹の猫を捕獲し、手術したとの連絡があった。

平成24年11月1日 女性宅・魚屋周辺で野良猫の捕獲を実施。(平塚のら猫を減らす会) 10匹の野良猫を捕獲し、手術を実施した。

～今後について～ 平成24年12月現在で合計25匹の猫を実施した。まだ、手術未実施の猫がいるとの情報もあり、今後も捕獲作業が必要となる。また、手術までは完了したものの、手術実施した猫の管理等の課題が残っているため、再度自治会との打ち合わせを調整しなければならない。

#### <北金目・北久保>

平成25年4月16日 のら猫を減らす会代表と北金目在住の女性が来庁。女性は自宅で10～20匹の野良猫の世話をしている、2年ほど前から不妊・去勢手術も積極的に行なっている。しかし周りの竹藪が猫捨て場になっているという話もあり、外から捨てに来ている人も多いようで、猫の数は減っていない。また、近隣の住民とトラブルになっており、北久保自治会長に直接苦情がいつている。自治会長はエサをやらなければ解決すると言っている。女性は周りに相談できる人はいないが、市議会議員には相談しており、議員から自治会長に話をしてもらったそうだが、なかなか理解は得られていない。代表と相談し、一度自治会長と団体と市で話し合いの場を設けることとする。

平成25年5月1日 のら猫を減らす会代表および会員、環境政策課職員2名、当事者の女性、市議会議員が参加し、自治会長および副自治会長と北久保自治会館にて面会。地域猫や野良猫が引き起こす問題、団体や市の立場等を説明した。自治会として苦情や相談は聞いているが、今問題なのは一つの家だけであり、地域猫までする必要がないのではとのこと。自治会員が集まった際に話はしてみるが、理解が得られるかはわからないとのことであった。潜在的な被害者がいる可能性や、今後被害が広がる可能性なども説明し、今回の話し合いは終了とした。

平成25年7月5日 5月1日の面会に参加した市議会議員から電話。相談者が捨て猫防止の看板をつけてもらいたいと話していたとのことだった。

相談者自身がつけてもよいが、できれば自治会長がつけてもらえるのと良いとのことだったため、市が自治会長に確認。つけてもらえるという事だったので3枚郵送した。

#### <河内>

今年3月頃からで野良猫にエサを与えている人がいて、警察に間に入ってもらうほどのトラブルになっているとのこと。エサやりをしてから猫が増え続けていると感じている。エサをやっている人に聞くと、猫は現在12匹いるとのこと。市や県で野良猫を捕獲するなど、対応してもらいたいとのこと。

平成25年6月4日 相談者から市に電話。市や県で対応して市からエサやりをやめさせるようなことは言えないこと、市民協働事業として行なっている地域猫のこと、市や県では野良猫の捕獲はできないことなどを説明。場合によっては自治会長と相談してみることを御伝えした。

平成25年6月7日 河内自治会長、副会長、平塚のら猫を減らす会会長、環境政策課職員2名にて面会。市に寄せられた相談内容と地域猫活動について説明。河内自治会長から、連合会の集まりの時に、各地域の自治会長まで伝えていただけるとのこと。もし他にも困っている地域があればそれも含めて再度市の方に相談するとのことであった。

平成25年6月26日 副会長から役員会の報告。地域猫のパンフレットを河内連合会の各自治会で回覧してもらうことになったとのこと。

#### <豊原町>

野良猫の糞害に困っていて、すぐに効果のある方法を市が行なってほしいとのこと。特に庭の糞害が酷くて困っている。

平成25年6月6日 相談者が来庁。現在市が行なっている猫対策（補助金や地域猫等）をお話した。即効性のある対応を求めていたが、地域猫の意義等については御理解いただき、自治会長等に相談してみるとのことであった。市としても豊原町自治会長に、相談内容等を御伝えすることとした。

平成25年6月7日 豊原自治会長に電話にて連絡。自治会長自身も野良猫で悩んでおり、商売している店で野良猫が増えてしまっているとのこと。

地域猫の説明会にも参加しており、ノウハウが欲しいとのことだったため、後日説明にうかがう事とした。

平成25年6月10日

豊原町会館にて自治会長含む役員、平塚のら猫を減らす会代表、環境政策課職員にて面会。地域猫の概要をお話し、まずは実際に被害にあっている町内会長宅でTNRを行なってみるとともに町内会で他に困っている人がいないか確認する方向で動くこととした。

#### <田村9丁目>

住民が野良猫問題で困っており、住民間でトラブルになっているとのこと。

平成25年7月4日

田村9丁目自治会長から市に電話。住民が野良猫で近隣住民とトラブルになっているという相談が自治会長にあった。また、自治会の方でも野良猫が増えて困っている。市でできる事などを教えてほしいとのことだったため、電話口でも説明をしたが、後日改めて会長宅に伺うことにした。

平成25年7月5日

自治会長宅で自治会長と関係者、野良猫問題で困っている相談者、平塚のら猫を減らす会代表、環境政策課職員2名で面会。相談者から話を聞いたところ、野良猫が家の周りに数匹おり、親猫と思われる2匹のメス猫は市の補助金を利用して不妊去勢手術済、その他の子猫は最近見かけなくなったとのこと。自治会長には法律や地域猫のことなどをお話した。また、後日自治会内で回覧を行ないたいとのことだったため、地域猫のパンフレットを送付した。

#### <東八幡2丁目>

平成25年10月10日

田端副自治会長が来庁し、自治会内の空き家が野良猫の繁殖場所になっていると相談を受ける。近隣の住宅にすむ住民から苦情が出ているとのことで、調査したところ、子猫が3匹ほどいたとのことだった。なにかの対応をしたいとのことだったため、地域猫等の説明を行なったところ、手術費などは自治会負担で行なうとのことだったため、申請を受け付けた。後日、一匹は手術が完了したとのこと。

#### <東真土1丁目>

平成25年11月7日 東真土1丁目のマンション駐車場付近で野良猫が多く10匹ほど生息しており、周辺住民から糞害なども多くて困っているとの相談を受ける。同日市から大真土三谷自治会長に連絡。地域猫等の説明を電話にて行なうとともに、活動を行なう際はのら猫を減らす会への相談をお勧めする。

<老松町>

平成26年2月6日 老松町に住んでいる方から近所で野良猫にエサやりをしている人がおり、糞害に困っているとのことと相談があった。エサやりをしている方の方からも相談があり、両者の間でトラブルになっていた。のら猫を減らす会と対応を検討し、老松町自治会長に連絡した。

平成26年2月13日 松原公民館にて自治会長、のら猫減らす会代表、環境政策課職員で今後について検討。地域猫については自治会長の方で回覧等して協力いただけるとのこと。相談を受けた件については個別に対応することとし、近日2人同席のもと、話し合いの場を設けることとする。

平成26年2月27日 松原公民館にて自治会長、組長、のら猫減らす会代表、相談者2人、環境政策課職員にて話し合いの場を設けた。両者から意見を聞き、野良猫にエサをやっている方は減らす会の協力の元、トイレや爪とぎの設置をすることとし、野良猫に困っている方には防除策をして少し様子を見ていただくこととした。後日、地域猫に関する回覧をすることとした。

<その他>

平成23年1月20日 SCNより取材を受ける。後日「ひらつか〜な」にて協働事業に関する番組が放映される。

平成24年11月22日 平塚総合公園内にてウンチパトロールを平塚のら猫を減らす会会員で実施する。(総合公園は以前より会が野良猫を管理している場所である。)

平成26年1月22日 平自連の定例会にて地域猫活動への協力をお願いを行なった。その後、いくつかの自治会長から地域猫のチラシを地区内で配りたいとの問い合わせがあった。

## 平成25年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	129,000	114,000	△15,000	市主催の講演会を開催しなかったため減額
	団体の支出	92,080	77,080	△15,000	団体主催の講演会を開催しなかったため減額
	事業収入	0	0	0	
	収入合計	A 221,080	B 191,080	B-A △30,000	
支 出	人件費	114,080 (114,000)	114,080 (114,000)	0	人件費明細参照
	講演会講師料	30,000 (15,000)	0 ( 0)	△30,000	講演会を開催しなかったため
	その他経費	77,000 ( 0)	77,000 ( 0)	0	<b>広報・印刷費 60,000円</b> <内訳> (地域への説明会時に配付する資料印刷代) 30ページ×20部×10地区×10円 <b>その他(消耗品費等) 17,000円</b> <内訳> 印刷用紙代 3,000円 猫寄せ用マタタビ代 700円×10個= 7,000円 プランター(猫トイレ) 1,000円×7個= 7,000円
	支出合計	C 221,080 (129,000)	D 191,080 (114,000)	D-C △30,000	
③	収支決算額 B 191,080円 - D 191,080円 = 0円				

※支出額の ( ) 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	平塚のら猫を減らす会	■団体 □行政
事業名	「地域猫」への取り組み	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	「地域猫」協働事業も3年目を迎え、現場で地域の問題を共有して行くなかで「猫問題は地域の人の問題」「まちづくり」を進める事の大切さを共有し、動物愛護法啓発の重要性が確認できた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	地域で起きるトラブル等は、行政の説明に住民が聞く耳を持ち、団体の説得より行政の住民へ果たす役割が大きく、協働事業の効果が大きかった。 また団体の待つノウハウが動物の生態等からの問題解決の促進には不可欠であった
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	地域ごとに異なるのら猫問題に対応するため、打ち合わせや協議を重ね、整理検討を行った。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	行政、団体共にお互いに主張し合うような事もなく、「対等な立場」を尊重できた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	団体のみで活動するよりも効果は大きかった。「地域猫」事業の進展と共に、地域毎に多くの市会議員が協議に関わり、地域が猫以外にも社会の変化・高齢化等の進展から様々な課題も発見した。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

## (2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	3	地域ごとに事情が異なり、解決への難しさがあるが、目的とする、「まちづくり」への広がりには簡単ではないが、進めることができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	この事業で大勢の人が動いた事になるが、経費に換算できない人的サービスが有った。昼夜を問わない活動が要求される現場からは「費用対効果」を計る事は難しい。高い目標意識を持ち、捕獲・動物病院搬送・手術・元に戻すというサイクルを何百匹と行なっている。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など猫は縄張りで生息するので、繁殖地域からは高い評価を得た。また、市議会議員からも高い関心が寄せられている。

## (3) 実施したメリット

市民のメリット	潜在的にのら猫問題に悩む地域が役所との協働事業で公になり問題が顕在化した。
団体のメリット	市との協働により団体の信頼度が増した、会メンバーの意識向上と活性化になった。団体のみでは成し得ない地域への動物愛護法の啓発になった。広く問題提起になる。
市のメリット	団体の持つ専門性が役立った、地域が抱える課題の発見、協働する事で行政の役割を認識した、市民団体を活用することで市民サービスにつながる。

## (4) その他、課題やその改善方法など

様々な問題が発生しているが、地域で心を病むお年寄りの事例が多くなったと感じている。今後も行政と連携しながら解決方法を探っていきたい。

## (5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (  提案型  提案型以外 )

行政が単独で実施

その他 ( )

休止または終了

団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

平成26年度も協働事業を実施する。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	環境政策課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	「地域猫」への取り組み	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	「野良猫を減らすのではなく、野良猫のトラブルを減らす」という統一した目標・目的については、行政・団体両方で共有して事業に取り組むことができたと感じている。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	それぞれの役割をしっかりと理解し、お互いの立場を尊重して遂行した結果、事業をスムーズに進めることができた。特に団体の野良猫問題に関するノウハウは大きな助けになった。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	「地域猫」活動は地域によって千差万別であり、マニュアルと言うものが存在しないため、協議については、数多く行ない、臨機応変にお互いが対応できるよう配慮した。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	「行政しかできないこと」、「市民団体でないとできないこと」を双方が理解し、お互いを補うことを常に意識して活動した。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	地域猫活動を実施するにあたり、行政・団体ともに単独では障害が多いと思われるが、協働事業を行なったことで双方の問題点を解決し、相互効果を得られていると感じた。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見



## B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	平塚のら猫を減らす会	担当課名	環境政策課
事業名	「地域猫」への取り組み		

### (1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

今年度も去年度に引き続き、合意のルールに則り、お互いの役割を明確にしながら協働事業を行なっていくことができた。行政と団体、それぞれが長所を活かして問題解決に当たるとともに、連絡を密にして連携することで、良い協働事業を行なう事ができたと思われる。

平成23年度からの地域猫活動も徐々に地域に根付き、PRも進んできたと思われるので、今後も市と団体が手を取り合い、より良い方法を探りながら活動を続けていきたい。

### (2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

地域猫活動実施地区は増えており、認知度も高まっていると感じている。地域猫活動の実施には地域（自治会等）の協力が重要であるため、地域猫活動はそこに住んでいる住民のための活動であり、実施することで様々なメリットがあることを伝えていく必要がある。市民にも活動を分かりやすく理解してもらうため、団体のノウハウを活かして「平塚市「地域猫活動」について」という事例集（パンフレット）を行政が作成するなど、普及啓発に努めている。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見



## 平成25年度実施 協働事業報告書

(宛先)  
平塚市長

団体名	ごみを活かす会	
団体代表者	永山 寿子	印
事業担当課名	循環型社会推進課	
事業担当課長	稲毛 義博	印

平成25年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

## 記

事業名	一般家庭での生ごみ自家処理推進事業		
事業開始年度	平成23年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	78,046円	内訳	市の支出 62,800円 ----- 団体の支出等 15,246円
事業の概要	一般家庭において、生ごみを自家処理し堆肥化などによる活用が可能であることを市民に広く普及することを目的に講習会等を行うものである。		
具体的な実施内容	以下のとおり、生ごみの自家処理に関する講座及び実践者の集い等を実施。 カッコ書きは一般参加者数（内数）。 <input type="checkbox"/> 地域講習会 6月 2日（日） 南原自治会館：21名（15名） 6月15日（土） 湘南高浜台ハイツ自治会集会場：30名（23名） 7月14日（日） 市民活動センター：10名（3名） 7月28日（日） 万田自治会館：19名（10名） 10月27日（日） 代官町自治会館：14名（7名） 10月28日（月） 松が丘公民館：33名（28名） 11月17日（日） 中原市民農園：17名（11名） 11月23日（土） 広川自治会館：16名（10名） <input type="checkbox"/> 生ごみ自家処理実践者の集い 2月23日（日） 市民活動センター：13名（5名） <input type="checkbox"/> ステップアップ講習会（相談員対象） 5月19日（日） 市民活動センター：13名		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以上

## 平成 25 年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	62,800	62,800	0	
	団体の支出	5,000	5,246	246	講習会の作成の為に印刷、コピー、テキスト代等 講習会用資材購入
	事業収入	0	10,000	10,000	松が丘小、南原小への出前講座(環境ファンクラブから)各1回
	収入合計	A 67,800	B 78,046	B-A 10,246	
	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
② 支 出	事務用品費	25,800 ( 25,800 )	29,166 ( 25,800 )	3,366	消耗品費 映写用スクリーン代 2,039 円、ポール代 1,400 円、 堆肥袋及びコピー用紙代 1,113 円、テープ代 550 円、 ゴムバンド代 315 円、雑費 3,229 円 印刷製本費 講習会テキスト印刷代 115 人×@100 円=11,500 円 コピー代 6,940 円、印刷代 2,080 円
	通信運搬費	20,000 ( 15,000 )	26,880 ( 15,000 )	6,880	運搬料(講習会資料資材用) 延べ73名×300円/日=21,900円 郵便料 切手代 480円 送料(相談員資料送付) 240円 [燃料費として] ガソリン代 1,960円 [使用料として] 講習会に係る駐車場使用料 2,300円
	人件費	22,000 ( 22,000 )	22,000 ( 22,000 )	0	実技講習会 1,000円/回×2H×8回=16,000円 ステップアップ講習会 1,000円/回×2H×3名×1回=6,000円
	支出合計	C 67,800 ( 62,800 )	D 78,046 ( 62,800 )	D-C 10,246	
③	収支決算額	B 78,046 円	- D 78,046 円	= 0 円	【備考】

※支出額の ( ) 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ごみを活かす会	■団体 □行政
事業名	一般家庭での生ごみ自家処理推進事業	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	事業も3年目となり、自家処理家庭を増やし生ごみの減量化を推進する目的は充分共有できた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	団体は実践的なことを、行政は広報やHPでの情報周知を担当し、それぞれの役割は適正であった。ごみ問題は自治会の大きい課題の1つであり、自治会への協力要請は工夫の余地が残った。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	行政、団体どちらも必要に応じて意見を出し合うなど、協議をしながら実施できた。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	お互いの立場を充分理解し、常にパートナー意識を持って進めることが出来た。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	行政にとっては、市のごみ処理の現状を直接伝える貴重な場となり、市民は団体が行政と協働で実施していることに安心感を持った。1つの目的に相互で取り組んだ効果は大きい。波及効果の点については、徐々に効果を出しているが今後の課題としても残っている点がある。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見



## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	循環型社会推進課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	一般家庭での生ごみ自家処理推進事業	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	生ごみの地域講習会やステップアップ講習会等を協働開催することで、生ごみの減量化や資源化等を普及する目的を共有しました。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	市民活動団体は生ごみの自家処理のノウハウを、市は活動内容の周知や広報を担当する等、それぞれの強みを活かすことができました。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	過去2年間の経験や成果を踏まえ、生ごみ処理相談員が地域で講習会を実施しやすくなるように、協議・改善等を行いました。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	互いにとっての強みを理解した上で、責任と役割を担うことができました。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	4	市民活動団体が長年培われてきた生ごみの自家処理に関するノウハウと、市のごみの減量・資源化施策が結びつき、各家庭で実践可能な取組が徐々に広がっています。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見



## B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	ごみを活かす会	担当課名	循環型社会推進課
事 業 名	一般家庭での生ごみ自家処理推進事業		

### (1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・「目的共有」：事業も3年目となり、生ごみの自家処理を通じてごみの減量化を図る目的は、十分共有できました。
- ・「役割分担」：それぞれの強みを生かしながら活動できました。
- ・「十分な協議」：必要に応じて意見を出し合い、事業改善に努めることができました。
- ・「対等な立場」：お互いの立場を理解し、パートナー意識を持って進めることができました。
- ・「相互評価や波及効果」：市は市民に楽しくごみを減量するPRの場を、市民団体は市と協働実施することによる安心感を持つことができました。取組自体は徐々に効果が出てきていますが、今後は自治会等との協力を強化していくことが課題だと思います。

### (2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・「目的・目標の達成」：生ごみ処理相談員、実践者の数は目標値に届きませんでしたが、講習会に参加いただいた人数は前年度比約2倍となりました。
- ・「費用対効果」：短期間で効果を発生できるものではありませんが、今後、生ごみ処理相談員、実践者が各地域で活動することで、費用以上の効果を得ることができると考えます。
- ・「受益者サービス」：各地域で講習会を開催したことで、市民は参加が容易になりました。アンケート調査からも「満足した」との回答を多数いただいております。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

### (3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

- ・「市民のメリット」：身近な場所を会場としたことで参加が容易になりました。また、地域の特性に応じて、講習会の内容（主な生ごみ処理方法や説明方法）を変更したことで、参加者の意識を高めることができました。
- ・「団体のメリット」：参加者からの質問や意見を通じて、自らのレベルアップ又は講習会を運営するための改善を図ることができました。
- ・「市のメリット」：生ごみ処理相談員、実践者、又は講習会への参加者が徐々に増えてきており、ごみの減量化及び資源化につながっています。

### (4) その他、課題やその改善方法など

- ・生ごみ処理相談員が活動しやすい環境を整えること。
- ・生ごみ処理実践者を増やすためのPRをすること。

### (5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型　■提案型以外）休止または終了  
行政が単独で実施団体が単独で実施  
その他（）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

#### ・今後の発展性について

市民提案型協働事業を通じて養成、かつ市に登録した「生ごみ処理相談員」が、平成 25 年度には各地域で講座を実施し、「生ごみ処理実践者」を育成するまでに至りました。平成 25 年度をもちまして事業は終了になりますが、引き続き「生ごみ処理相談員」を中心としながら、団体と市の協働により、家庭で生ごみを自家処理する市民を増やし、ごみの減量化や資源化を推進していきたいと考えております。

#### ・自主財源の確保について

団体は、出前講座や冊子を販売して得たいと考えます。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	環境政策課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立 (グランドワークの推進)	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	市民が自然と触れ合える、憩いの場所を提供するという目的を共有して進めることができたと考えている。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	適正であった。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	十分に協議を行ない、団体の特性の理解に努めた。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	「役割分担」に沿って事業を進め、対等な立場を尊重して事業を実施することができた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	市単独では実施することは難しいが、里山整備のノウハウを豊富に持つ団体の力で実施することができた。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

## (2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	多くのイベントを実施し、市民に対して里山に対する理解を深めることができたと考えている。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	市民と協力したブルーベリーの植栽会を実施することができた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 団体が主催するイベントに多くの市民が参加したことで、満足度は高かったと考えている。

## (3) 実施したメリット

市民のメリット	ブルーベリーの植樹などのイベントが里山で行われていることにより、地域の憩いの場となり、里山に対して親しみが増した。
団体のメリット	イベントを数多く開催することにより、団体の活動に対して市民の理解が進んだ。
市のメリット	市が目指す、市民が自然と触れ合える憩いの場を作ることができた。

## (4) その他、課題やその改善方法など

現地視察等により事業が実施されていることは確認済みだが、4月末現在、団体からの自己評価シート等が提出されていないため、市の自己評価シート等のみの提出とする。

## (5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (  提案型  提案型以外 )

行政が単独で実施

その他 ( )

休止または終了

団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

--